長野県立歴史館たより

2017年 **今**号 vol.93



平成29年度 冬季展

2017.12.16 金~ 2018,2,25 (E)

「植御母」の明治経新



田中芳男(飯田市美術博物館『博物館の父田中芳男』より転載)

1866 (慶応2) 年2月、魚すくいの網と長持 を担いだ奇妙な風体の男たちが江戸近郊の野山を 駆け回っていました。「虫捕御用」と呼ばれた彼 らのリーダーが信州飯田の出身、田中芳男でした。 29歳。国内外の物産の収集、研究をおこなう幕 府の開成所に勤める下級役人でした。

彼らは何のために野山を駆け回っていたのでし ようか。



19世紀半ばのヨーロッパは万国博覧会ブーム のなかにありました。1851年 のロンドン万博を 皮切りに、ニューヨーク、パリ、62年には再び ロンドンで万博が開催されました。広大な敷地と 最新の建造物。そこに世界各地の植民地から集め た珍奇な文物を展示する万博というイベントは、 それ自体が西洋文明の勝利の象徴だったのです。

幕府に正式な出品依頼が届いたのは66年、67 年開催のパリ万博への出品依頼でした。この時、 フランス政府は昆虫標本の持参を依頼しました。 当時の日本には昆虫標本はもちろん、虫を捕る道 具も虫ピンもありませんでした。芳男たち「虫捕 御用」は、実は日本人が経験したことのない昆虫 標本作りに挑戦していたのです。

50箱程の標本を手に芳男がパリに向かったの は1866年11月でした。

□中芳男の明治維新

京都に目を向けましょう。この年1月薩長同盟 が成立、6月には第二次長州征伐が始まりますが、 将軍家茂が急死、中止されました。志士たちが倒 幕の動きを加速し、それを阻止しようとする新撰 組などと衝突、京のちまたを血に染めていました。 私たちがよく知る「幕末・維新の英雄たちの物 語」です。

ところが、その最中に「虫捕御用」は野山を駆 けめぐっていたのです。地味で、ほとんどの方が 知らないことでしょうが、彼らの挑戦は、西洋の 文物、とくに植物や動物、技術を取り入れ、育て、 人々の生活を豊かにする営みに展開していきます。 例えばリンゴ。1866年、芳男は西洋の平果 (アップル)の樹を和リンゴに接木しました。日 本初の試みでした。リンゴ苗の繁殖は明治に入り 盛んになります。第一回の苗木の配布は1875年、 青森県に3、4本、筑摩県・長野県には各3本で した。信州リンゴは芳男たちの努力で生まれたの です。華やかさはありませんが、社会を変えると ても大切な試みです。

芳男は1916(大正5)年、79歳で亡くなります が、たくさんの植物の収集・改良・普及に努めた 人生でした。「虫捕御用」、それが原点であり、彼 にとっての「明治維新」でした。ちなみに、田中 芳男は東京高等農学校(現東京農業大学)の初代 学長でもあります。

芳男は1838 (天保9) 年、伊那郡飯田町 (現 飯田市)に生まれました。医者を営む家の三男で した。くれ木山の支配を任された美濃国久々利の 旗本千村氏が飯田に置いた役所の中でした。父降

^{そう} 三は長崎に留学、最新の西洋科学書を持ち帰りま した。そして芳男の周囲には、日本で初めて彩色 のキノコ図鑑や植物図鑑を著した市岡智寛・嶢智 父子、世界地図を描き、地球儀を教材に授業をし た寺子屋師匠北原因信、国学者松尾多勢子や北原 稲雄がいました。様々な学問を全身に浴びながら 育ったのでした。

当時の飯田町は、東西南北の街道が交差する交 通の要衝でした。小藩ながら豊かな文化が花開い た町でした。飯田の勝れた風土が、芳男を育むゆ りかごの役割をはたしたのです。

もう一つ忘れてならないのが名古屋の存在です。 19歳で名古屋に留学する芳男を待っていたのが、 シーボルトに学び、先進的な博物学の知見をもっ ていた伊藤圭介でした。西洋の物産研究が欠かせ ないと考えた勝海舟が白羽の矢を立てたのが伊藤。 芳男は圭介に従って幕府に出仕することになるの です。



「古今珍物集覽 元昌平坂聖堂に於て」 (文部省博覧会錦絵 飯田市美術博物館蔵)

1867(慶応3)年、パリ万博に出向いた芳男は、 人生を決定づける出会いを体験します。ジャルダ ン・ド・プラント。パリ近郊に作られた自然史博 物館です。

博物館というと、文化財を集めて展示するイメ ージがありますが、ジャルダン・ド・プラントは、 そうした博物館のほかに、植物園、動物園、図書 館が併設された施設でした。芳男はその見事さに 感動し、そうした総合的な博物館を日本に作り出 すことが自分の使命だと考えたのです。

1871 (明治4) 年文部省に出仕すると、翌年 町田久成らと「文部省博物館」の名で博覧会を開 催しました。日本の博物館の始まりであり、東京

国立博物館の起源です。彼が「日本における博物 館の父」と呼ばれるゆえんです。

この時の記念写真が残されています。 芳男35 歳、町田も同年。皆若いです。博物館が若かった 頃の熱気を感じる印象的な一枚です。博物館との 遭遇からわずか5年ほど。大変な行動力です。

博物館は、その後、内山下町博物館を経て、 1882 (明治15) 年上野に設立されます。上野に なぜ動物園があるか、お分かりになりましたか?

パリ万博は芳男に、博物館と殖産事業という、 生涯を通して追い求める課題を与えました。彼は 帰国にあたり銀製のスプーンを購入しました。こ のスプーンは、その意味で彼の人生の「始まりと 継続」を象徴します。

ところで、冬季展「田中芳男-「虫捕御用」の 明治維新」では、飯田市美術博物館の特別協力を 得て、同館が所蔵する芳男関係資料を多数展示し ます。しかし、同館が平成11年田中芳男展を行 った時、同館にはこのスプーン1点だけが寄託品 としてあっただけでした。今回展示する資料は、 その後十数年かけて同館が収集してきたものです。 その意味で、飯田美博にとっても、このスプーン は「始まりと継続の象徴」です。

また、スプーンは、ものを掬い上げる行為の象 徴でもあり、食べ物を掬うことは命を養うことの 象徴でもあります。

冬季展「田中芳男一「虫捕御用」の明治維新」。 ご覧になられた皆さん一人一人が、思い思いの、 この世に一つしかない〈スプーン〉を見つけるき っかけになれば幸いです。



銀製スプーン(飯田市美術博物館蔵)

が開発を

県立歴史館には多量の木製品が収蔵され、日々 保存処理作業が進められています。先日処理を終 えた資料に社宮司遺跡(千曲市)出土の下駄(写 真1)がありました。台(足をのせる部分)と2 本の歯が一体となった「連歯下駄」です。歯の間 の台が前後の2倍くらい厚いので、作りかけ(未 製品)かと思って加工痕を観察しましたが、最後 に開ける緒の穴(壺)が厚い部分を貫いていまし た。今回は、下駄について考えてみましょう。

1998 (平成10) 年11月に滋賀県埋蔵文化財セ ンターで下駄を題材にした特別展「近江出土の履 物」が開かれ、その成果はさらに練られて『下駄 神のはきもの』という書籍(以下、『下駄』)に まとめられています(秋田2002)。約30,000冊 におよぶ発掘調査報告書から事例を拾い、遺物を 観察した著者は、下駄には祭祀具の性格があると 指摘しています。古墳の副葬品にあることや、各 地の遺跡から祭祀具と一緒に出土すること、さら に、絵巻などに、「井戸」「廁」のような今も神が 祀られる場所で用いられる様が描かれていること がその根拠になっています。近年刊行された弥 生・古墳時代の木製品に関する書籍をみると、下 駄をあえて祭祀関連の遺物には分類しておらず (樋上 2016)、「神のはきもの」という評価も、 今のところ一つの見方にとどまっています。

特別展「近江出土の履物」に際して作成された 下駄のリスト (秋田2000) をみると、長野県の 事例は干沢城下町遺跡(茅野市)しか取り上げ られておらず、長野県の出土例が全国でどのよ うな位置を占めるかわかりません。ただし、『下 駄』の本文では当館所蔵の榎田遺跡(長野市)の 出土品が日本最古級の資料の一つとされていま す。リストは1998年8月までに滋賀県埋文セン ターなどにあった報告書を調査対象としています が、当館蔵の木製品が出土した遺跡のほとんどは、



【写真1】社宮司遺跡出土の下駄(長さ約23.5cm)

1998年以降に調査報告書が刊行されました(表1)。 そこで、まず当館にある下駄を抽出し、その出 土状況も含めて検討することで、どんなことがわ かるかみてみましょう。

当館にある下駄 (田下駄は農具として除外) は、 部材(歯など)や保存処理中のものを除いた確実 な資料だけで、9遺跡の52点を数えます(全て 含めると96点)。時期は、最も古い榎田遺跡(5 世紀)から、近世以降まで幅があります。

『下駄』で9世紀まででなくなるとされている、 前壷 (先端部分の鼻緒の穴) の位置が左右に偏っ た下駄は、確実なものだけで11点あります。下 駄はほとんど片足しか出土しませんが、この形 の下駄は、左右どちらのものかわかります。『下 駄』では、片方しか出土しないことと、2:1の 割合で右足が多い不均衡から、何らかの意図が働 いて資料が残った可能性が示唆されています。し かし、当館の11例は左と右が6:5です。母数が 小さいので決定的ではありませんが、左右の極端 な偏りはみられません。ただし、下駄が必ずし も実用品でないことをうかがわせる事例に、屋 代遺跡群出土の小さな下駄(写真2)がありま す。現況で台の長さが約13.8cm、後ろの壷の間

隔が3.5cmと、幼児にしか履けないサイズの割に 歯が高く、磨り減りもみとめられません。古代の 溝(SD7025)から出土したもので、同じ溝から もう一つ小さな下駄が出土していますが、こちら は使用した可能性があります。屋代遺跡群からは、 まとめて廃棄された斎串や馬形などの木製品が出 土し、水辺の祭祀が行われたことがわかっていま す。下駄とセット (一括) で出土したわけではあ りませんが、この小さな下駄が発見された溝から も祭祀具の人形が出土しています。

祭祀遺物とともに出土する点で、『下駄』で着目 されたのは井戸からの出土例です。当館の下駄に も井戸から出土したものが7点ありました。もと もと木製品は湿った場所でしか遺らないので、井 戸から出土しただけで祭祀具とは言えません。し かし、東條遺跡(千曲市)では、報告書で祭祀が 行われた可能性が指摘される井戸 (SK1123) か ら下駄が出土しています。下駄をキーワードに遺 跡全体を見直すと、この井戸と遺物の構成(琴の 形代、小刀の柄、燃えさし、下駄)が似ている別 の井戸(SK844)も見つかりました。これらの 例から、下駄は祭祀にも使われた可能性があると 考えられ、今後の新たな出土例も加えて分析する ことにより、出土する下駄の性格を、さらに深く 検討できるでしょう。

屋代遺跡群や東條遺跡のものは、祭祀に用いら れた可能性も感じさせる下駄で、特に写真2は 未使用とみられるものでした。ところが、写真

1の下駄は割れ目の両側に計 3対の小穴が空けられ、繕わ れています。屋代遺跡群から は前壷が2つあって一方が木 片で埋められた(歯が磨り減 った段階で左右を交換したも のか) 下駄も出土しています。 これらは実用品としての下駄 の扱いを物語っていますし、 浅川扇状地遺跡群(新幹線/ E9地点)からは、中近世の 一つの溝 (SD01) から29点



【写真2】屋代遺跡群出土の小さな下駄

もの下駄(断片含む)が出土しています。下駄は、 遅くとも近世には日常の履き物として普及します ので、これらの資料は日用品としての下駄のあり かたや変化を示していると言えそうです。

今回は、保存処理と同時に進む整理・公開の作 業をより意味あるものにするため、下駄を窓口に 館蔵の木製品を検討してみました。データベース 的に使うことで見えてきた課題は、今後に生かす 予定です。 (遠藤公洋)

【参考文献】(各遺跡の発掘調査報告書は割愛)

秋田裕毅『下駄 神のはきもの』法政大学出版局 2002年 秋田裕毅「全国出土下駄一覧」『紀要 第13号』滋賀県文 化財保護協会 2000年

樋上 昇『樹木と暮らす古代人 木製品が語る弥生・古墳 時代』吉川弘文館 2016年

【表1】 県立歴史館所蔵の下駄とみられる木製品 (2017年10月1日現在)

遺跡名	下駄の出土数 ()内は部材等	出土した遺構の特徴	時代・年代	形状の特徴	報告書 刊行年				
石川条里遺跡	1	素掘井戸	中世	連歯下駄、前壷は中央	1997				
川田条里遺跡	6(2)	溝跡から出土	近世・近世~	連歯下駄と差歯下駄、判明した 前壷は全て中央	2000				
屋代遺跡群	10(2)	大半は溝跡から出土	古代	判明した前壷は全て左右に偏っ ている。小さなもの2点	1999				
榎 田 遺 跡	4(2)	全て湿地から出土	古墳時代	1点は左足用、2点は未完成	1999				
松原遺跡	1	中世の井戸跡から 曲物とともに出土	中世~	差歯下駄で前壷は中央	2000				
前山田遺跡	2(3)	平坦面から出土	中・近世	1点は左足用	1999				
浅川扇状地 遺跡群E9地点	6(24)	1点を除いて同じ溝跡 から出土	中・近世	踵部分の台に模様があるもの1 点、判明した前壷4例は全て中央	1998				
社宮司遺跡	9(1)	井戸状の土坑から2点、 他は奈良〜平安時代の 流路から出土	古代	前壷は明瞭に偏るもの3点、中央 が4点	2006				
東條遺跡	13(10)	井戸から3点、溝跡から 1点、他は屋敷の平坦面	中世 (1点を除き 中世後期)	はっきり確認できた前壷5点は全 て中央	2012				
合 計	52 (44)	※点数は報告書非掲載資料を含む							

りょう じ き そ よし なか もち ひと おう

研究の窓以仁王の令旨と木曽義仲・覚明

1180 (治承4) 年2月、歴史が大きく動きま した。清盛の孫安徳天皇が践祚(皇位継承)した のです。このことは皇統が清盛の血統に移ったと いう点で重大でした。後白河上皇の皇子以仁王が 挙兵したのは、同年5月。平家追討の令旨を掲 げ、平氏や安徳天皇の皇統を否定するための挙兵 でした。皇統を奪い返すという宣言です。以仁王 の後盾は親子関係となっていた八条女院(鳥羽 上皇皇女) でした。このころの女院には、蔵人や 判官代などの役人となった在京武者が集まりまし た。八条院は京や地方武士を巻き込み以仁王を背 後から支援したのです。木曽義仲の兄仲家は八条 院の蔵人。養父源頼政とともに以仁王を擁して挙 兵した張本人の一人です。また義仲の叔父源行家 は以仁王の命令を八条院蔵人として諸国へ運びま す。同じく叔父義広も八条院領信太荘(茨城県) 荘官で、のち義仲の軍に合流します。

叔父行家から以仁王の令旨を受けた義仲はただ ちに挙兵。義仲に与することになる比叡山の僧永 雲らが以仁王の皇子ならびに頼政の孫を義仲のも とへ送り届けたとして流罪になります。義仲は兄 仲家が頼政の養子であり、頼政や以仁王・八条院 とつながることから、事前に示し合わせ挙兵した のです。義仲の挙兵理由が単に以仁王の令旨を受 け取ったからというのは単純すぎます。

以仁王らの動きは露見し、頼政、仲家は討死し ます。以仁王は平等院から園城寺に逃れ、園城寺 は奈良最大の僧兵を有する興福寺に救援を求めま す。このとき興福寺の僧信救は「平家の糟糠 武

家の塵芥」と清盛を罵ります。糟糠はぬか・かす のこと。塵芥はごみです。こんな挑発的な返事を 園城寺に書き記した信救こそのちの大夫坊覚明で す。信救は勧学院に出仕した経歴をもつ学問僧で す。清盛はこの信救の侮蔑的な罵言に怒り、彼を 捕らえるよう命じます。逃れる信救は、美濃国で 源行家と接触、覚明と名を改め北陸道をすすむ義 仲軍に加わるのです。この覚明の行動は、以仁王 挙兵に関わる行家や園城寺、頼政などのネットワ ークのなかに位置けられ、故に義仲の配下にはい ることも当然の成り行きだったと考えます。

平家物語には義仲と覚明の印象的なエピソード がみえます。倶利伽羅峠の合戦を前にした義仲が、 源氏の氏神をまつる埴生護国八幡宮へ戦勝祈願す るのです。このとき平清盛を「これ仏法の仇、王 法の敵なり」と罵り義仲の加護を祈願した願書を 執筆したのが覚明でした。このお陰で義仲は平家 軍に勝利を収めることができます。「木曽願書」 と題するこの話題は、平家物語前半の主人公・平 清盛を悪役に仕立て、かたや新興の木曽義仲を新 たな主人公として引き立てる話題転換の場として 極めて重要なエピソードといえます。

今年度当館ではこの「木曽願書」を主題にした 絵巻を購入しました。金地に草木の美しい下絵、 極彩色を用いた表情豊かな人物は見て飽きません。 江戸時代前期、ちょうど大名がさまざまな物語を 題材にした絵巻・絵本を発注する時期の制作です。 この絵巻は、義仲を引き立てる大夫坊覚明こそ主 人公ではないでしょうか。 (村石正行)



願文を筆写する覚明(左)



願文を奉納する義仲(左)

示資料紹介



常設展示室の近世のコーナーに、飯田市の人形 浄瑠璃 黒田人形(模造)を展示しています。黒 田人形の制作・修理を多く手がけた大阪の三代目 由良亀(藤本玉美)に黒田人形の模造をお願いし 制作したものです。

長野県内において人形座の所在地は33か所が 確認されています。このうち伊那谷には29か所 があり、現在も上演活動をしているのは、上伊那 郡箕輪町の古田人形、飯田市の黒田人形・今田人 形、下伊那郡阿南町の早稲田人形の4座です。

黒田人形は300年以上の伝統をもち、村人たち によって運営されてきました。飯田市美術博物館 の長年にわたる調査では92の頭が確認されてい ます。

頭の内部には、糸で目や口などを動かすからく りが施されており、中には人形師が墨で名前や制 作年を記したものもあります。



吉田金吾が作った頭 (宮田村教育委員会蔵)

1872 (明治5) 年3月に吉田金吾が作ったという墨書銘が頭の 内部にある。

頭の墨書で多く確認されるのが「吉田金吾」と 「天狗人」の銘で、それぞれ22点あります。

「吉田金吾」の銘の入ったものは黒田人形に10 点、大田切人形(上伊那郡宮田村)に8点(確実 に作ったもの)が残され、ほとんどがこの2座で 占められます。

吉田金吾(生没年1834~1883年)は江戸時代 後期、代々竹本座(大坂)に属する人形遣いの家 系に生まれた人形遣いで、吉田国三郎を名乗り、 1841 (天保12) 年から1862 (文久2) 年まで 大坂に拠点を置いて人形を操っていました。

幕末から明治の初め頃、金吾は家族とともに、 大坂から上伊那郡宮田村大田切に住み着きました。 金吾は人形を操るだけではなく、頭の制作も行い ました。

大田切に定住した金吾は、村人に人形浄瑠璃を 教え人形芝居を盛んにしました。また、飯田市黒



天狗久資料館 (徳島県徳島市国府町和田

田などへも出向き、何日も黒田人形の指導にあた り、頭を残しました。

もう一つは徳島を代表する人形師天狗久(生没 年1858~1943年)が制作した頭の銘です。天狗 久は本名を吉岡久吉といい、1943(昭和18)年に 亡くなるまで、徳島市国府町和田の工房で人形の 頭を作り続け、その頭数は優に千を越えたと言わ れています。吉田金吾の活躍した時期の後に天狗 久が活躍した時期がおとずれており、金吾亡き後、 徳島の人形師の人形を求めたものと思われます。

天狗久が作った頭は、金吾が作った頭より1~ 2 cm程大きなものがあります。天狗久は暗い芝居 小屋でも映えるように大きなものを作ったと言わ れています。

信州から遠く離れた大坂・淡路発祥の伝統文化 が伊那谷を中心に残されているのです。

(小野和英)

「吉田金吾」と「天狗久」の墨書銘のある頭

	,	人形囟	Ē		地	域		「吉田金 制作の	「天狗久 制作の頭	
1	古		田	上	伊	那	郡	0	0	
2	上	殿	島	上	伊	那	郡	0	0	
3	大	田	切	上	伊	那	郡	8	5	
4	本		郷	上	伊	那	郡	0	5	
5	横		前	上	伊	那	郡	0	6	
6	河		野	下	伊	那	郡	0	0	
7	黒		田	下	伊	那	郡	10	0	
8	今		田	下	伊	那	郡	1	5	
9	野		池	下	伊	那	郡	0	0	
10	桐		林	下	伊	那	郡	0	0	
11	安	城 垣	外	下	伊	那	郡	0	0	
12	上	Ш	路	下	伊	那	郡	0	0	
13	伊	豆	木	下	伊	那	郡	0	0	
14	伊豆	豆木ほ	見坂	下	伊	那	郡	0	0	
15	立		石	下	伊	那	郡	0	0	
16	竹位	左・ヌ	九山	下	伊	那	郡	0	0	
17	金		野	下	伊	那	郡	1	0	
18	早	稲	田	下	伊	那	郡	2	1	
19	新		野	下	伊	那	郡	0	0	
20	清	内	路	下	伊	那	郡	0	0	
21	宮		Ш	諏	Ē	方	郡	0	0	
22		蘭		木	自	自	郡	0	0	
23	親		沢	南	佐	久	郡	0	0	
	合		計					22	22	

参考文献:『飯田市美術博物館調査報告書(1)伊那谷の人形芝居-

INFORMATION インフォメーション

■2017(平成29)年度 12月~3月の行事予定

12月

休館日 4.11 18. 25~31

1 月

休館日

1~3

9.15

22.29

2月

休館日

5.13

26~28

19.

田中芳男

~「虫捕御用」の明治維新~

12/16(土)~2/25(日)

■講演会

12/16(土) 13時30分~ 旧中芳男をめぐって 一伊那谷の人のつながり一| 講師 笹本正治(当館館長)



『外国捃拾帖』 (東京大学総合図書館蔵)

■講演会

1/20 (土) 13時30分~ 「近代日本の礎を築いた田中芳男」 講師 櫻井弘人氏 (飯田市美術博物館学芸係長)

■イベント

2/4(日)

「神々の舞う里

-南信濃の民俗芸能に触れよう」 霜月祭り・雪まつりの記録映像上映

■講座

2/10 (土) 13時30分~ 田中芳男

- 「虫捕御用」の明治維新」 講師 青木隆幸(当館学芸部長)



北地之平果 南方之蜜柑 (飯田市美術博物館蔵)

3月

休館日 1~5 12.19 22.26

平成30年巡回展

長野県の遺跡発掘 2018

 $3/17(\pm)\sim6/3(\pm)$

講座・イベント

近世史セミナー

テーマ「信州と身分制社会」 12/3回 13時~

講演「維新前後の身分をめぐる動向」 講師 斎藤洋一 氏

(小諸市古文書調査室) 他に研究報告があります。

やさしい信濃の歴史講座 「川と信州のあゆみ」

①12/9(土) 13時30分~ 「御牧ヶ原と塩田のため池 -本州一の少雨地に田をつくる―」 (畔上不二男)

「水を得る戦い―用水堰の開鑿―」 (小野和英)

「日本人の心に生きる『河童』」 (溝口俊一) 「信州の川と利水・治水・親水」

(市川 厚) ③1/6 出 13時30分~

「変わりゆく人里の植物たち ~安曇野の水辺から~」

(松田貴子 安曇野市 新市立博物館準備室職員)

「天竜川流域の信仰とその造形 諏訪大社神宮寺と知久氏を中心に一」 (織田顕行 飯田市美術博物館学芸員)

やさしい信濃の歴史講座in諏訪

会場:諏訪市図書館視聴覚ホール 1/27 (土) 13 時 30 分~ 「シナノから科野へ クニづくりの中の諏方 -小丸山古墳出土資料ほか最新の発見資料から-」

⑤2/3生13時30分~ 「川のある風景 一広重《洗馬》をめぐって」 (林 誠)

(西山克己)

「器械製糸黎明期の歴史

-水車の動力利用にかかわって―」 (山田直志)

⑥2/17生 13時30分~ 「『屋代ムラ』

その日その時、そして復旧・復興への道のり -発掘調査からみた888年の大洪水とその後―」 (寺内隆夫)

「旧石器時代のムラ

-川辺のムラ、湿地を囲むムラー| (大竹憲昭)

やさしい信濃の歴史講座in松本

会場:松本市立博物館 2/24年 13時30分~ 「伊那県と夜明け前」

(青木隆幸)

⑦3/10 13時30分~ 「果てなく黄色い花咲く丘で 長野県民の満州体験一」 (青木隆幸)

表紙の写真の解説

『教草』のうち「澱粉一覧 上」

明治7年、博覧会事務局発行、武田昌次誌/服部 雪斎画、飯田市美術博物館蔵、半期のみ展示

ウィーン万国博覧会出品のために、全国から 集めた産物の製法などを解説した『教草』全 30点の中の一枚。調査・出版にあたっては、 田中芳男が中心的な役割を果たした。

行事アルバム

**古文書探訪会(10/12) **



10月12日に「佐久の新田・用水をめぐ る」というテーマのもと、古文書探訪会 を実施しました。五郎兵衛記念館、五郎 兵衛用水取水口、新海三社神社、小諸市 御影用水史料館を見学しました。現地で はゆかりの古文書を熟覧し、佐久の新田 開発を学ぶことができました。

遺跡探訪会(10/14)



10月14日に「群馬・埼玉の巨大古墳を 訪ねる」をテーマに埼玉県行田市の埼玉 古墳群と群馬県高崎市の保護用古墳群を 訪れました。長野県内の尾根上に築かれ たものとは異なり、両古墳群ともに関東 平野の平らな土地に築かれた前方後円墳 です。その景観に参加者の皆さんは驚い ていました。埼玉古墳群では国宝「金錯 銘鉄剣」や日本最大の直径105mの円墳 丸墓山古墳などを見学しました。保渡田 古墳群では八幡塚古墳に復元された埴輪 群像や壮大な舟形石棺などを見学しまし

長野県立歴史館たより 冬号 vol.93 2017 (平成29) 年12月1日発行

編集·発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市屋代260-6 電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996 E-mail: rekishikan@pref.nagano.lg.jp ホームページ:http://www.npmh.net/

印刷 奥山印刷工業株式会社